

簡易土壌水分計でかん水時期を診断し黒大豆の収量・品質を向上

近年、夏季の降雨の変動が大きく、丹波黒大豆栽培では開花期（8月上旬）から^{さや}莢伸長期（9月上旬）の土壌水分を適切に管理し、収量・品質の向上を図るためかん水が重要となっている。この度、ほ場の乾燥程度が簡単に分かる簡易土壌水分計を用い、かん水のタイミングを計る診断技術を開発した。

内容

黒大豆ほ場における土壌の乾燥程度を簡易に把握するため、ポラスカップ（素焼き管）、透明の塩ビ管、シリコン栓で構成される簡易土壌水分計を開発した。簡易土壌水分計は、乾燥が続くと空気が侵入するポラスカップの働きにより水位が変動し、塩ビ管の指示値が大きくなる（図参照）。

使い方は簡単で、簡易土壌水分計を中耕培土後の^{うね}畝の頂上から深さ20^{センチ}までほ場に差し込み（1ほ場当たり2～3カ所）、塩ビ管に水をいっぱい入れ、シリコン栓をする。

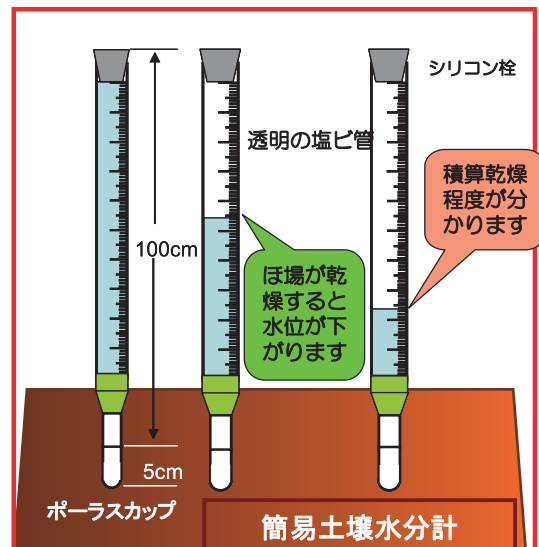
かん水のタイミングは、丹波黒大豆の開花期から莢伸長期（8月から9月）に水分計の水位が30^{センチ}でかん水の準備をし、さらに60^{センチ}に低下したときには、必ずかん水する。

普及上の注意事項

簡易土壌水分計は、藤原製作所（<http://www.fujiwara-sc.co.jp/>）から土壌水分目視計として販売され

ている（キットは4,500円）。ポラスカップとしてニッカトー社製を指定する。詳細は当センターウェブサイト（http://hyogo-nourinsuisangc.jp/13-topics/13d-press/22/jun_5.html）でマニュアル、Q&Aを公開している。

須藤 健一（農産園芸部）
（問い合わせ先 電話：0790 - 47 - 2410）



簡易土壌水分計を用いた黒大豆のかん水時期判断方法

